
恋愛？学園？物語

910Len

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛？学園？物語

【Nコード】

N9421C

【作者名】

910Len

【あらすじ】

平凡な高校生、氷室和也。いつもの帰り道を通って帰るはずだった・・・満月の夜に、吸血鬼に青年は出会う。笑いあり・ラブありときどきシリアス？そんな平凡な高校生と吸血鬼の学園物語。

第0・1話：出会い（前書き）

ちなみに0・1とか書いてるけど、とくに関係ないです。
吸血鬼の設定は作者が変えて書いています。

第0・1話：出会い

「今日のバイトはいつも以上にハードだった・・・」
とかそんなことをつぶやく

「じゃあないよな、学費は親が出すけど、小遣いは自分で稼がないと」

そんなことをつぶやきながら、いつも通る道を歩く
いつも通るそよ風公園の入り口にさしかかった時だった。

ウワァー

と男の叫び声が聞こえた。

「なんだ!？」

俺は、声の聞こえた方へ行く。

それが彼女との出会いだった・・・

「くるなあ!」

「ふふっ、大丈夫殺しはしないわ少し血をもらっただけ・・・」

「うああ」

「うるさいわね、少し眠ってもらっわ、今日は満月だから力が使える」

「・・・」

「ふふっ、やっと静かになったわ」

彼女は、そう言いながら眠らせた男に近づき、首に顔近づける

「うふふっ、やっぱり人の血の方が落ち着くわ」

「（なんだよ、あれ・・・血を吸ってる・・・?）」

俺はそう思った瞬間背中にももの凄い寒気を感じ俺はしばらく動けなかった。

ドサツと俺は鞆を落とす

「ヒッ・・・!」

「ッ！見たわね・・・恨みはないが見た者の記憶は消させてもらうわ」

俺は鞆を拾う。

「ああ・・・うわああー」

と叫びながら公園の出口まで走る

「逃がさない・・・」

ガツと石につまづく。

「がつあ!」

思いつきり地面にぶつかる

「くっ！痛てえ」

「ふふっ・・・自分でころぶなんて間抜けね」

「（くそっ！俺はここで死ぬのか？）」

「ふふっ殺しはしないただ記憶を消すだけ」

「あ!・・・」

最後に視たのは、彼女の紅い瞳だった・・・

「・・・ここは？」

「あ！起きたね大丈夫？ここは病院よ？」

「母さん？俺はどうしてここに・・・」

「記憶ないの？」

「バイトが終わって帰るところは覚えてるんだけど・・・」

「それからの記憶が無い？」

「うん・・・」

「大事をとって、今日も休んでおきなさい」

「わかった・・・ごめんもう一度寝るよ・・・」

そういつて俺はまた眠りについた。

次の日

「あーくそ、全く思い出せない。」

「ういゝす！ひむっち！気分はどう！」

こいつはおれと同じ学校の近藤健と言う、クラスも中学1年から高2まで五年間同じまあ腐れえんが続く、悪友だ

「まあぼちぼちだ、て言うかそのあだ名やめて」

「えー、いいじゃんひむっち、うずらっちみたいで」

「わあーたよ、それでいいよあだ名」

「おおノリいいねえー」

「つーか、時間やばいぞ・・・」

「えーマジで？」

「マジで」

「走るか・・・ひむっち」

「走る・・・遅刻したらシャレにならない」

と言いながらふたりとも、走る構えをする。

「「うおおおお」

と言う叫びとともにふたりとも全力疾走していった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9421c/>

恋愛？学園？物語

2010年10月11日22時18分発行